

ようこそ 大雪山国立公園へ

国立公園に来たら、まずビジターセンターに立ち寄ってみよう。地域の自然や歴史の展示、スタッフの案内解説などを通して、公園を楽しむための最新の情報が入手できる。さまざまな自然体験イベントやプログラムも行われている。

大雪山国立公園では、層雲峠と旭岳温泉にビジターセンターが、高原温泉にヒグマ情報センターが環境省により整備されている。また糠平には上士幌町のひがし大雪博物館がある。



層雲峠ビジターセンター

層雲峠温泉にある。自然観察コース案内、地形ジオラマなどの展示と、ハイビジョン映像による大雪山の四季の紹介などを行っている。また、季節の自然散策やバードウォッチング、スノーシュートレッキング、アニマルトラッキングなどの行事も行っている。



〒078-1701 北海道上川郡上川町層雲峠 tel.01658-9-4400
<http://sounkyovc.town.kamikawa.hokkaido.jp/>

高原温泉ヒグマ情報センター

高原温泉・沼めぐりコースの入り口にある。ヒグマとの接触事故防止のため、入山者に対するレクチャーのほか、監視パトロールを行っている。



ヒグマとの つきあい方

高根ヶ原の東麓には森に囲まれた小さな湖沼が多く、高原温泉をベースにここを巡るトレッキングコースは、秋の紅葉季には多くの人が訪れる。しかし、この地域はヒグマの行動圏と重なるため、人とヒグマの距離が非常に近くになることがある。

ヒグマ情報センターは、ヒグマとの接触事故を防止するため、環境省が平成6（1994）年に設置した施設である。利用者は、入山前にここでヒグマ情報やヒグマに関する知識などの研修を受けることが義務づけられている。また、常駐するスタッフがコースの監視を行い、ヒグマの出現状況や天候に応じてコースの閉鎖などの措置をとり、事故の防止に努めている。



持続可能な利用 登山道の管理計画

この公園で登山者が多いのは旭岳からトムラウシ山にかけての表大雪一帯、それに十勝連峰の南部である。

かつて静かな山だったところも、近年登山者の増加で登山道の荒廃が目立ちはじめ、高山植生への影響が憂慮されるようになった。このような状況に対処するため、環境省は歩道の路線ごとに、その場所の環境と利用状況に応じた登山道管理のあり方と登山の心得を定めている。



旭岳ビジターセンター

旭岳温泉にある。ジオラマなどにより大雪山の自然を紹介している。また、自然観察会などを開催している。



〒071-0372 北海道上川郡東川町旭岳温泉 tel.0166-97-2153
<http://www.welcome-higashikawa.jp/vc/index.htm>

ひがし大雪博物館

糠平温泉にある上士幌町立の博物館。大雪山地域の自然に関する展示を行っている。また、自然観察会や、自然観察ガイドの養成事業なども行っている。



〒080-1403 北海道河東郡上士幌町糠平 tel.01564-4-2323

大雪山における登山の心得

- ！ 大雪山を次世代に引き継ぐために、自然環境への配慮に努めましょう
- ！ ほかにも利用者がいることを認識し、周りへの配慮をしましょう
- ！ 登山の基本は事故防止と自己責任にあります
- ！ 大雪山での宿泊時には、多くの環境への影響に配慮しましょう
- ！ 残雪期・融雪期・降雨時に登山する場合には、環境への影響を特に考えましょう
- ！ 管理者などの指示は遵守しましょう